

# MDGs・人間の安全保障の時代



## “人”が“人”として生きていくために

世界中の誰もが新たな時代の到来に歓喜していた2000年、ニューヨークで国連ミレニアム・サミットが開催された。世界各国の代表者が集うこの場で、新たな開発の方向性として採択されたのが「ミレニアム開発目標（MDGs）」。

「人間の安全保障」の概念が普及。紛争や感染症などの脅威から一人一人を守り、そして、自ら乗り越えていけるような「人づくり」の支援に目が向けられるようになった。

### 学校運営を通じて住民のポテンシャルを引き出す

MDGsの教育分野の目標として掲げられたのは、「すべての子どもが初等教育を受けられるようになること」。しかし当時、サハラ以南アフリカでは、初等教育の純就学率はわずか58・2%（2000年）。

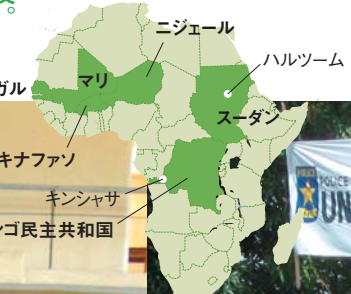
卒業できるのはその6割に満たなかった。学校、教室の数が足りない、教科書、ノートも人数分ない。ただそこにいるのは、学校に行きたくても行けない子どもたち。

そうした状況の中で日本は、教育支援に乗り出すことに。その先駆けとなったのが、2004年からニジェールで実施されているJICAの「住民参画型学校運営改善計画（通称みんなの学校プロジェクト）」だ。プロジェクトの初代チーフアドバイザーを務めた原雅裕JICA客員国際協力専門員いわく、「すでに住民の間で、教育の重要性は十分に認識されていた。大人たちにも、子どもたちのために何とか現状を変えたいという強い思いがあった。ただ、それを発言し、行動に移せる場がなかったんです」。

住民の誰もが参加できる学校運営を。そう考えた原さんが注目したのは、校長、教師、地域の代表などから構成される「学校運営委員会」の能力強化だ。透明性のある組織にするため、委員の選定は住民による投票制を採用、学校や地域の問題について話し合う住民総会を定着させた。すると、「学校」という場を通じて、住民たちのポテンシャルが引き出され、



MDGsが採択された国連ミレニアム・サミットには、世界189カ国から代表者が集まった（読売新聞社提供）



（右）コンゴ（民）の治安維持を支援するため、JICAは「警察民主化研修」を実施（左）南部スーダンのジュバ職業訓練センターで学ぶ訓練生たち。国の未来は、技術を身に付けた彼らの手にかかっている



校舎やトイレの建設、補習授業の制度化などが導入された。「住民」と「政府」をつないでいくことも重要でした」と原専門員は強調する。実際、現場の盛り上がりを目の当たりにした教育関係者により、学校運営委員会の取り組みが国の教育政策にも反映された。プロジェクト開始から6年余り、住民たちによる「下からの改革」は、ニジェール全土に広まり、さらには、セネガル、マリ、ブルキナファソでも各国版「みんなの学校プロジェクト」が進行している。

### 復興支援―新たな挑戦の時代へ

しかし時を同じくして、JICAはアフリカで新たな「挑戦」に立ち向かうことになる。1980～90年代、紛争の影響により撤退せざるを得なかった、スーダン、コンゴ民主共和国（以下

コンゴ（民）」に、再び支援の根を下ろすことになったのだ。両国の活動の拠点として、07年にはスーダンの首都ハルツーム、コンゴ（民）の首都キンシャサに駐在員事務所が開設された。

だがその道のりは、想像以上に厳しいものだった。長年の紛争による混乱を経て、両国はほとんどどの地域で政治もインフラも壊滅状態。教育、保健などの社会サービスも、まったくと言っていいほど機能していないのだ。何をすることも一筋縄にはいかなかった。

コンゴ（民）駐在員事務所初代所長を務めたJICAアフリカ部・飯村学課長によると、「首都といっても、電話はおろか、まともな道路もないし、銀行も機能していない。外に出ると、あちこちに人があふれ返っている状態です。大統領選挙後まで銃撃戦が繰り返されてきたこともあ



学校運営委員会の委員を選んだり、住民総会に参加したりすることで、学校運営への参加意識も高まる

り、どこにいても緊張が途切れませんでした。何よりも重要とされたのは、スタッフの安全性を確保し、活動を開始できる環境を整えること。電話網もなく、インターネットも普及していないため、初めは政府関係者とアポイントも取れない。会ってもらえるまで、何日も、何時間も省庁で待ち続けることもあった。「ある専門家の方からお聞きした言葉ですが、平和構築の過程にある国を支援することは、泥船に乗って航海に出る。ようなもの。泥水が入ってきても何度かき出し、必死で前に進んでいかなければならない。JICAが他の途上国で行ってきた支援とは異なる「覚悟」が求められています（飯村学課長）

復興国に平和が定着するまでには相当な時間と労力を要する。事務所開設から2年半、警察の民主化研修や除隊兵士の職業訓練など、スーダンとコンゴ（民）ともに、地道に取り組んできたプロジェクトが少しずつ実を結びつつある。一日でも早くすべての人に平和な時が訪れるよう、JICAは困難を乗り越え、現地の人々とともに歩んでいかなければならない。多難の先に見える、明るい光に向かって――。



コンゴ（民）首都キンシャサの主要道路（左）と小さな露店。インフラが壊滅状態の中でJICA駐在員事務所の立ち上げが行われた